



あったことです。たとえば、全体のごみの中でも大量にあった吸い殻や容器、フィルターといったばこに関するものがあります。また、弁当などの食品品は中身が残っておりまだ新鮮で誰かが捨てたのではないかと思われました。

海岸のごみを減らすためには、まず一人一人がごみを捨てないことが大切ですが、少ない人数での活動では錦江町の海岸からはごみはなくならないと思えました。なぜなら、ごみを誰かが拾っても、誰かが捨てるのごみは減ることはなく増えていく一方だからです。ごみの問題は錦江町全体・鹿児島県全体・世界全体で考えていく必要があると思います。

②平成20年10月29日(水)

国道269号線沿いごみ調査

ごみ調査第二弾は、国道269号線沿いのごみ拾いをしました。鹿屋市と錦江町の境目から南大隅町の境目までの約10kmを3年生55名を18のグループに分けて約2時間ごみを拾いました。いつもは、車でしか通るとの道でも実際に歩いてみると、今まで気づかなかった大きなごみが落ちていたり、少し茂みに入ると空き缶の山があったりと驚きがたくさんありました。左の写真は、ごみを集めたときに記録したデータをもとに作ったごみのおおよその分布と数量(一部)です。赤がたばこの吸い殻、黄がお菓子などの食品の袋、緑が缶やペットボトルなどの飲み物、青がその他です。



鹿屋市との境

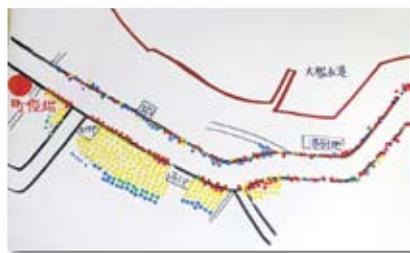
トロピカルガーデン付近

ごみが特に多かった場所は、バス停やゲートボール場という

人が多く集まる場所でした。またトロピカルガーデン付近の坂の上の竹やぶには隠れるようにしてたくさん空き缶やペットボトルが捨ててありました。近くには自動販売機がありましたがごみ箱はありませんでした。それから国道沿いではなかったのですが、皆倉の海岸には数えきれないほどのごみが捨てられていました。

城ヶ崎海岸〜錦江町役場

市街地では、食べ物のごみも最も多かったです。近くには、コンビニエンスストアがありました。錦江町役場の周辺は、ごみもあまり落ちていなくともきれいでした。その理由は、掃除をしてくださる方々がいらっしやるからだと思います。



【気になったこと】

国道のごみ拾いでは、道路に落ちていたばこの吸い殻の数が非常に多かったです。その総数は、3012本でした。下の円グラフは、その時に拾ったごみの割合です。赤い部分がすべてたばこの吸い殻です。

2回のごみ調査を終えて「どうやったらごみはなくなるのだろうか」とみんなで考えました。3年生の中から出てきた案は

- ・ごみ箱を設置する。
- ・ポスターや看板を設置して呼びかける。
- ・町内放送や町報を利用して情報を発信する。
- ・今回のようなごみ調査を今後定期的に行う。

も定期的に行う。

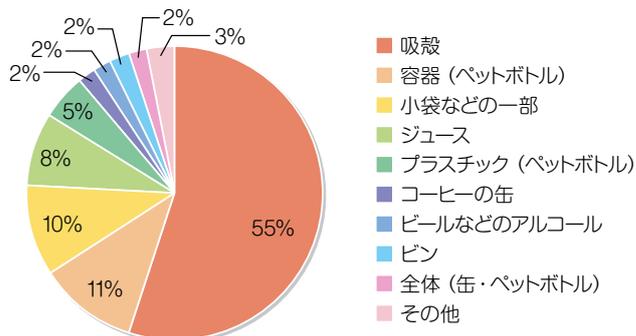
最後にこれからもきれいな錦江町になるように私たち中学生も活動を続けていきたいと思えます。ポスターの設置など協力していただけると心強いです。

錦江中学校3年代表

岩下 川埜 福岡

辺志切 松山

(平成20年度卒業生)



◆役場からのお知らせ

ごみステーションからごみの持ち去りを禁止及び罰金を科する条例が平成21年7月1日から施行され、ごみを持ち去って検挙された場合は、20万円以下の罰金を科されます。

STOP!
ごみどろぼう

